

I N F O R M A T I O N

■ **大学からのお知らせ**
■ **連続講座「京の美意識」**
連続講座「京の美意識」は、2004年に完成した本学の萩原キャンパス「有響館」開設記念事業として、同年10月より始まった講座です。4月から毎月著名な講師の方々をお招きし、「京の美意識」についてご講演いただきます。ぜひご参加ください（無料）。**【お問い合わせ先】** 〒616-8362京都市右京区嵯峨五島町1番地 芸術文化研究所内「連続講座・京の美意識」係TEL. 075-864-7898（直）FAX. 075-882-7770geibunken@kyoto-saga.ac.jp

[連続講座 スケジュール]	
「京の伝統工芸 ― 截金 ―」2006年4月22日(土)	江里 佐代子〈重要無形文化財「截金」保持者〉
「京で想う陶」2006年5月20日(土)	宮下 善爾〈陶芸家〉
「京の香り」2006年6月17日(土)	畑 正高〈(株)松栄堂代表取締役社長〉
「京の織芸術」2006年10月21日(土)	白井 進〈(株)龍村美術織物 取締役〉
「能と京都」2006年11月25日(土)	橋本 雅夫・橋本 光史〈観世流能楽師〉
「想いをカタチに」2006年12月16日(土)	深見 陶治〈陶芸家〉
「京の扇」2007年1月13日(土)	福井 芳秀〈(有)十松屋福井扇舗代表取締役〉
「京の文化 ― 殺陣 ―」2007年2月17日(土)	上野 隆三〈殺陣師〉
「美の工夫」2007年3月24日(土)	千 宗守〈茶道・武者小路千家 十四代家元〉

■ **附属博物館／附属ギャラリー「アールスペース嵯峨」スケジュール**
附属博物館予定 炎への旅路 ―清水六兵衛 五代・六代の世界― 展
京都の焼き物といえば、京焼きの名門である清水家であり、八代の歴代当主が続いている清水六兵衛です。今展覧会では特に五代・六代の作品を取り上げ、代々の清水家が展開してきた造形と色彩の美に焦点をあてます。
会期 2006年 4月1日～4月30日
会期 2006年 4月1日～4月27日
附属ギャラリー予定 第2回 収藏品展
【お問い合わせ先】 休館日 毎週月曜日 開館時間 10時～18時（最終日は17時閉館）京都嵯峨芸術大学・博物館／ギャラリー課
TEL 075-864-7852 FAX 075-881-7133

■ **本学教職員展覧会情報**
4／22～4／27 中井浩史展 ―大切な景色― ギャラリー島田（神戸）中井浩史（洋画）3／18～6／25 特別展 人のかたち ―もうひとつの陶芸美― 陶芸の森（滋賀）日野田崇（陶芸）

■ **京都嵯峨芸術大学公式サイトのご案内**
京都嵯峨芸術大学公式サイトでも嵯峨芸情報をご覧いただけます。
<PC・携帯>
http://www.kyoto-saga.ac.jp

また、こちらのQRコードを使って携帯サイトにアクセスすることも出来ます。ぜひご利用ください。



■ **2006年度入学宣誓式**
京都嵯峨芸術大学大学院並びに京都嵯峨芸術大学、京都嵯峨芸術大学短期大学部の合同入学宣誓式を下記のとおり執り行います。なお、式典終了後には保護者懇談会を開催します。日時：2006年4月4日（火）10:00～会場：講堂（講堂棟4階）
■ **2006年度オリエンテーション**
新入生は一日も早く本学に慣れるように、在学生には進級する毎に必要な情報を、新年度のオリエンテーション期間に提供します。
■ **大学行事**

◎在学生向けオリエンテーション
3/22(水) 芸術学部3年次編入生、大学院2回生履修ガイダンス
3/23(木) 成績配布
～24(金) 履修・進路ガイダンス
3/30(木) 定期健康診断

◎新入生向けオリエンテーション
3/17(金) 大学院履修ガイダンス
4/4(火) 全学部入学宣誓式、保護者懇談会
美術学科オリエンテーション
4/5(水) カリキュラム・進路ガイダンス
4/6(木) 全学部履修登録
4/7(金) 定期健康診断
大覚寺見学会
4/8(土) 人権講演会、社会教育講座
学友会主催 新入生歓迎会
図書館利用ガイダンス

京都嵯峨芸術大学広報
第 16 号
2006年3月17日発行
編集●京都嵯峨芸術大学 企画広報室
発行●学校法人大覚寺学園 京都嵯峨芸術大学
〒616-8362 京都市右京区嵯峨五島町1番地
TEL.075-864-7859
FAX.075-882-7770
info@kyoto-saga.ac.jp
印刷●大光印刷株式会社

京都嵯峨芸術大学 広報

KYOTO SAGA UNIVERSITY OF ARTS PUBLIC RELATIONS

Contribution

学びて思い、思いて学ぶ - 巣立ちゆく諸君へ -
京都嵯峨芸術大学 学長 三好郁朗

News



第34回制作展を開催 卒業・修了制作展／進級制作展
大学改革について
専任教職員人事
大本山大覚寺新開真堂門跡猊下が本学名誉学長に就任
教育後援会 第34回制作展見学会

Topics

教員の活躍
点字用紙リサイクルコンペにおいて、観光デザイン学科の金氏脩介教授が 特別賞
在学生の活躍
第11回学生CGコンテストで受賞／平成17年度夢の自転車アイデア募集において入賞／第1回みず糸賞」大賞受賞
大学の活動
生き粋倶楽部展報告／研究生展報告／生涯学習「絵本」講座受講生による作品展／観光芸術展―観光が育てた芸術作品― 他



Information

生涯学習講座2006年度受講生募集
公開講座 京の美意識
入学式・オリエンテーション
博物館・ギャラリー予定
展覧会情報



俗に「あいて変われど、ぬし変わらず」と言いますが、長く大学に勤める私など、まさにそのままで、次々と入学、進級、卒業していく学生諸君をかれこれ40年も見送り続けてきました。

もっとも、見方を変えると、私が教室で対面するのはほとんどが20歳前後の若者たちなわけで、そのことは何年たっても変わらない。

それこそ「十年一日の如く」、周囲はいつだって若々しい。そのように、いつも変わらず若さに囲まれていると、ついつい自分も若いままで居るような気持ちになるわけで、そのためでしょうか、大学の教師ほど精神的に大人になりきれない人種もないのでは、思ったりします。

学んで思い、思いで学ぶ - 巢立ちゆく諸君へ -

三好郁朗 京都嵯峨芸術大学 学長

ところで、最近の若い人たちと話していると、せっかくの自分の思いや感覚を正確に表現しようと努力せず、自分たちの世界でだけ通じる安易な表現に妥協して、それで相手と理解し合えたような錯覚に身をゆだねてしまう、そういう場面が多いように思えてなりません。

若者文化を否定するつもりはないのですが、自分たちの時代の大人の文化を築くためにも、いかに正確に自分の思考を表現（言語化、表象化）するか、そのための努力、そのための方法の習得が大切だと思うのです。

『正法眼蔵』の道元禪師が「あわれむべし、かれら年慮の語句となることをしらず、語句の念慮を超脱すること

をしらず」と言っておられる。認識は言語によって表現されなければならぬが、その言語は既成の認識に依存しただけでなく、それによって従来の認識が乗り越えられることもある。

つまり、認識を言語化することによってこれまでの認識の枠組みを突き崩し、さらに新たな認識をもたらすことがあると言うのです【注】。

これまで言語化されずにきたもの、その必要を感じなかったもの、それを新たに言語化する努力があつてこそ、はじめて新しい発見もありうる、自分にとって新しい世界が開かれうるのです。みなさんの専門領域である芸術もそうでしょう。

日常のわれわれは、自覚せぬまま、世界に対し一定の見方をもってしまっています。それですべてを判断しようとしている。そうした日常世界の自明性を揺さぶる体験こそが、芸術や文学の大切な役割だと思います。

これまで表現できなかったもの、表現されずにあったものをいかに表現するか、それが芸術の目指すところであり、そのようにして表現されたものがさらに新たな世界を開くからこそ芸術は、人類の文化においてかけがえのない位置を占めているのです。

大学で学んだことなど、社会に出ればほとんどのものの役に立たない、そう吐き捨てるように言う人に出会うことがある。そのたびに私は「論語」の言

葉を思い出します。「学びて思わざれば、即ちくらし。思いて学ばざれば、即ちあやうし」。知識や情報をたくさん得ても、自分で思考しなければ、どのように生かすべきかわからない。逆に、思考するばかりで知識や情報が伴わなければ、すべてが一方的、独善的になってしまう、といったところでしょうか。

大学で学んだ知識や情報がなんの役にも立たないというのは、知識を生かすべく自分で思考する方法を学ばなかったからでしょう。あるいは、自分なりにいろいろ考えているのだが、しっかりとした知識や情報が伴っていないので、一方的、独善的となり、周囲から相手にされないのかもしれない。

学ぶこととすることを両立させ、加えてそれを正確に表現（言語化、表象化）する方法を身につけることこそ、大学での教育のもっとも重要な目的であると、私は信じています。

本学で芸術を学び、芸術について考える方法を学んだ諸君は、そのことを通じて自分を見いだす方法、さらには

それを言語化（表象化）する術をも、しっかりと学んでくれたはずです。これからもなお芸術の道を追い求めるにしろ、また違った道に進むにしろ、見出した自分をいかに表現するか、そのためのより優れた方法を、これからも学び続け、考え続けてほしいと思います。ただし、学ぶものはつねに謙虚でなければなりません。

若さゆえの冒険、向こう見ずは、むしろ賞賛されてしかるべきですが、向上と深化への思いだけはつねに失わずいてほしい。またもや「論語」からですが、これからもなお学び続ける諸君のために、次の言葉をはなむけとします。

「学は及ばざるが如くせよ。なお之を失わんことを恐れよ」（学問をするとき自分はまだ十分でないという気持ちを持て。しかも、得たものは失わないように心がけよ）。

【注】
頼住光子著「道元」(NHK出版)による。



第34回制作展を開催

卒業・修了制作展

2月8日～2月12日、京都市美術館において、京都嵯峨芸術大学並びに同短期大学部の卒業・修了制作展を開催しました。

卒業を控えた学生たちが集大成の作品発表をする同展に、今年度新たに開設された大学院芸術研究科1回生の作品も加え、一段と充実した展覧会となり多くの来場者で賑わいました。中でも、観光デザイン学科や造形学科メディアアート分野の作品は、次代へのさまざまな可能性を秘め、観る者に新鮮な印象を与えました。

なお、開催初日に、優秀作品として各賞を選定（右の一覧表参照）。受賞者は、3月20日の卒業・修了証書授与式に先立って行われる授賞式で表彰されます。

進級制作展

同期間中、大学会場では、芸術学部2・3回生と短期大学部1回生の進級制作展を開催しました。普段学生たちが授業を受け、制作している大学のキャンパスを利用して進級課題作品が展示されました。

また、学生による実行委員会が中心となって展覧会全体のコーディネートを行い、「university museum」というテーマのもと、大学全体を美術館と見立てた展覧会が展開されました。瑞々しい感性が溢れ出る自主制作の作品展示をはじめ、アート人力車プロジェクト、現代美術家嶋本昭三氏によるワークショップなど盛況のうちに終了しました。

芸術学部					
学長賞	造形学科	日本画	4	市宮 景子	高桐院蔵牡丹図
学長賞	観光デザイン学科		4	佐々木 崇典	Animal Paper Bag
芸術学部賞	造形学科	油画	4	浪江 紀子	clip.clip.clip
芸術学部賞	観光デザイン学科		4	小松 左苗	へっこんだ体
大覚寺賞	造形学科	日本画	4	山本 真由美	(禪林寺)山越阿弥陀図
教育後援会奨励賞	造形学科	日本画	4	川村 昌子	赤燵図
教育後援会奨励賞	造形学科	日本画	4	野木 彩	ハシビロコウ
教育後援会奨励賞	造形学科	油画	4	五影 華子	leaves
教育後援会奨励賞	造形学科	油画	4	平良 優紀子	tendre
教育後援会奨励賞	造形学科	版画	4	青田 佳子	四年間
教育後援会奨励賞	造形学科	デザイン	4	柴崎 友佑	トキハ風ナリ
教育後援会奨励賞	造形学科	彫刻	4	小谷 梨恵	□＜凹
教育後援会奨励賞	観光デザイン学科		4	北山 めぐみ	街の断片、あるいはことばの片隅に
教育後援会奨励賞	観光デザイン学科		4	永田 恵理	未端試験弁の向こう側へ
教育後援会奨励賞	観光デザイン学科		4	中谷 加奈子	けいはんな～京都・大阪・奈良における新しいおみやげ開発の研究～
同窓会賞	造形学科	日本画	4	藤崎 純美	grow
同窓会賞	造形学科	油画	4	永島 千裕	しなるの水船
同窓会賞	造形学科	版画	4	渥美 詩子	everyday a long way off
同窓会賞	造形学科	デザイン	4	本松 芳峰	ノゾキアナ
同窓会賞	造形学科	彫刻	4	涌出 祥寛	直と曲
同窓会賞	観光デザイン学科		4	永尾 修子	蘭-Ran-2006. 創刊号
短期大学部					
学長賞	美術学科	混合表現	2	山下 沙弥香	identity-winter-
学長賞	美術学科	グラフィックデザイン	2	小林 由佳	The ABC's
美術学科賞	美術学科	日本画	2	野田 奈津実	蛸(さなぎ)
美術学科賞	美術学科	洋画	2	尾原 里美	ハートの器
美術学科賞	美術学科	陶芸	2	石井 麻以	絵本
美術学科賞	美術学科	染織	2	花巻 麻由子	内と外
美術学科賞	美術学科	イラストレーション	2	丸山 真世	黒字線きのレストラン
美術学科賞	美術学科	イラストレーション	2	荒井 芽実	ゴーイングホーム-枚方市駅周辺計画-
美術学科賞	美術学科	生活デザイン	2	上野 由里子	i x z
大覚寺賞	美術学科	イラストレーション	2	塩尻 麻衣	性格ちゃん
大覚寺賞	専攻科	美術専攻日本画	2	黒田 正裕	コウジョウ
大覚寺賞	専攻科	デザイン専攻	2	小野 智美	ごあいさつ
教育後援会奨励賞	美術学科	洋画	2	山之内 泉美	山之内泉美展
教育後援会奨励賞	美術学科	洋画	2	川崎 洋	自我昆虫画
教育後援会奨励賞	美術学科	混合表現	2	富田 風子	胎動
教育後援会奨励賞	美術学科	染織	2	太田 円	静の中の動
教育後援会奨励賞	美術学科	グラフィックデザイン	2	北村 ゆき	The collector's piece
教育後援会奨励賞	美術学科	グラフィックデザイン	2	中村 光司	頭の中の世界
教育後援会奨励賞	美術学科	グラフィックデザイン	2	若槻 華奈	飲む健康
教育後援会奨励賞	美術学科	イラストレーション	2	高島 沙羅	MILKY TOWN
教育後援会奨励賞	美術学科	イラストレーション	2	林 真美	にのしご
教育後援会奨励賞	美術学科	イラストレーション	2	三浦 絢	きみといっしょに。
教育後援会奨励賞	美術学科	イラストレーション	2	池村 奈津子	PUSHMAN
教育後援会奨励賞	美術学科	イラストレーション	2	長尾 有希子	せとうち美術大学構想計画
教育後援会奨励賞	美術学科	生活デザイン	2	久米 真弓	わくわくゆうえんち
教育後援会奨励賞	美術学科	生活デザイン	2	河内 貴子	波紋
教育後援会奨励賞	専攻科	美術専攻日本画	2	早崎 智絵	時計草
教育後援会奨励賞	専攻科	美術専攻日本画	2	松 和美	吹きさる風
教育後援会奨励賞	専攻科	美術専攻洋画	2	河本 絵里	星屑
教育後援会奨励賞	専攻科	美術専攻混合表現	2	前田 万才子	彼女をみるとき
教育後援会奨励賞	専攻科	美術専攻陶芸	1	岡安 真美	季節のかほり
教育後援会奨励賞	専攻科	デザイン専攻	2	川上 真由子	The Opposite
教育後援会奨励賞	専攻科	デザイン専攻	2	川上 友	キリエホン
同窓会賞	美術学科	日本画	2	福田 彩乃	うたうひと
同窓会賞	美術学科	陶芸	2	田村 亜希	球と球
同窓会賞	美術学科	染織	2	安達 彩乃	白雨
同窓会賞	美術学科	グラフィックデザイン	2	田中 亜紀	Sugar Panic
同窓会賞	美術学科	イラストレーション	2	上田 梨可	vogelchen
同窓会賞	美術学科	生活デザイン	2	青木 香奈	地上150cm
同窓会賞	専攻科	美術専攻日本画	2	柴原 瞬悟	限りあるもの
同窓会賞	専攻科	美術専攻洋画	2	平田 信子	ダズ
同窓会賞	専攻科	美術専攻混合表現	2	小畑 公巳代	鑑識
同窓会賞	専攻科	デザイン専攻	2	浅田 花巳	Kao

大学改革について

2007年度から、京都嵯峨芸術大学芸術学部にて、新たな学科として「メディアデザイン学科」（構想中）を設置する予定です。

この学科は、造形学科の「メディアアート分野」を基盤とし、メディアテクノロジーを駆使して現代メディア社会の課題に、アートとデザインの両面からアプローチできる人材の育成を目指すものです。4つの専門領域（メディアデザイン、メディアアート、映像・アニメーション、イラストレーション）で構成され、文部科学省には、4月に申請を行います。

同じ芸術学部の造形学科については、従来の4分野に工芸分野を追加し、新たな4年制の教育課程編成を目指します。また、日本画分野の古画研究をさらに充実させ、「伝統・創造」を基本としたカリキュラムを盛り込みます。

さらに詳しい内容は、随時報告して参ります。

名誉学長就任

昨年12月より、大本山大覚寺新
開真堂門跡猊下が本学名誉学長に
就任されました。

新開真堂師は昨年10月26日の臨時宗会にて第60世門跡に選定され、任期は2005年12月1日から2009年11月30日までの4年間です。2月23日には普山式が執り行われました。

多年に亙り、本学園における教育・研究活動の発展に寄与いただ

專任教職員人事

いた下記の先生方が、2006年3月
末日をもって退職されます。

川口、辻両教授には本学園定
年退職後も特別任用教員として、
教育・研究活動にご協力いただき
２００５年度 定年退職者／短期大学部教員
講義部門 大竹 仁子教授
２００５年度 退職者／特別任用教員
企画部 山内 正幸先生にご指導願う
養育学科 辻 信夫教授

例年開催しております制作展見学会を、2月12日に実施いたしました。

100名と戦える保護者の方々の
ご参加をいただき、直家昌昭教育
後援会会長、三好郁朗学長の挨拶

の後、池田八栄子制作展委員長から制作展の概評報告、北村正己学生部長から進路関係の説明が行われました。各コース別に担当教員と昼食をとりながら懇親会を行い、その後バスで移動、京都市美術館へご案内いたしました。

第34回制作展では31名の学生が教育後援会奨励賞を受賞し、受賞者については3月20日に行なわれる卒業式の前に授賞式が執り行われます。

点字用紙リサイクルコンペ
障害者のくらしと社会を、「ものづくり」でつなぐユニバーサル・ビジネス・プロジェクト

TOPICS

「ユメチエ」の点字用紙リサイクルコンペにおいて、観光デザイン学教授が特別賞を受賞されました。金氏教授は、ユニバーサルデザインを研究対象の一つにされています。

空海のデザインと嵯峨天皇

本学園理事長でもあります、大本山大覚寺坂口博翁執行長が、著書「空海のデザインと嵯峨天皇」を4月に出版されます。詳しくは大覚寺出版部（075-871-0071）までお問い合わせください。



TOPICS

在学生の活躍

学生CGコンテスト受賞

第11回学生CGコンテストのインタラクティブ部門において、五十嵐亮介さん（大学院芸術専攻1回生）と、大巻弘美さん（芸術学部造形学科4回生）の共作による「Tell-Portation」が、応募総数135点の中から佳作に選ばれました。受賞作品はWeb上と、2月24日～3月5日の期間、東京都写真美術館において公開されました。

夢の自転車アイデア募集にて最優秀賞

関西サイクルスポーツセンターが主催する、「2005度 夢の自転車アイデア募集」において、観光デザイン学科1回生の岡田孝博さんの作品が近未来型自転車部門で最優秀賞を受賞されました。受賞作品は実際に制作され、3月18日・19日の夢の自転車新作発表会・試乗撮影会で公表されました。

卒業生の活躍

「第1回みずゑ賞」受賞

美術出版社が発行するみずゑ主催の「第1回みずゑ賞」の絵本部門において、卒業生の濱口桜子さんの作品「おとうさんのぱんつ」が大賞を受賞されました。受賞作品は3月8日～21日の期間みずゑギャラリーにて展示され、みずゑの2006年春号と夏号の2回に渡って掲載されます。

大学の活動

車座シンポジウム

『ベアテ・グーチョウの世界』
1月14日、ドイツ人写真家のベアテ・グーチョウ氏をお招きして、車座シンポ「ドイツ現代写真の今日－写真家 Beate Guetschow の世界－」と題したシンポジウムとワークショップが本学有響館にて開かれました。
京都国立近代美術館で開催されていた展覧会、「ドイツ写真の現在－かわりゆく「現実」と向かいあうために」との関連イベントとして開催され、当日は雨にもかかわらず、約100名の参加者がありました。
シンポジウムにおいては自作について語っていただき、ワークショップでは学生の作品についてコメントをいただき互いに議論を交わすなど、会場は熱気にあふれていました。

附属博物館 附属ギャラリー 「アートのスペース嵯峨」

生涯学習「絵本」講座作品展

昨年に引き続き、今年も本学の生涯学習「絵本」講座受講生による作品展「めくるめくるファンタジー－絵本とその原画展－」を、1月10日～1月15日に附属ギャラリーで開催しました。
学生や社会人、主婦の方等受講生17名が、水彩や色鉛筆を使った独自の表現方法で作品を完成、約200点の原画と出来上がった絵本が並びました。子育てなど受講生自らの経験を絵にした作品もあり、来場者の目を惹き付けていました。

第3回活き粋倶楽部展

社会人入学生の集まりであるサークル『活き粋倶楽部』の第3回展覧会が、本学ギャラリーにおいて1月17日～1月22日の期間開催されました。今春卒業を控えた学生もあり、それぞれ熱のこもった力作揃いの作品が多く展示されました。

研究生報告展

2月15日～19日の5日間、附属ギャラリーにて附属芸術文化研究所所属の研究生達による作品展を開催しました。広いギャラリー空間を十分に活かして、研究生達の一年にわたる研究成果が色濃く反映された作品展となりました。

観光芸術展

－観光が育てた芸術作品－

昨年11月2日～12月22日の44日間、京都嵯峨芸術大学附属博物館並びに附属ギャラリーにおいて、国立民族学博物館との共催により、第8回企画展「観光芸術展－観光が育てた芸術作品－」を開催致しました。



開催期間中は、学生や地域の皆様、一般の方々等今までにない多くの来場者があり、当館始まって以来、最多の入館者数を記録しました。

また、国立民族学博物館の研究部教授並びに本学の観光デザイン学科の先生方による講演会を5回開催し、盛況の中多数の来聴者が訪れました。

INFORMATION

生涯学習講座

2006年度受講生を募集！

本学が30余年間の教育・研究活動で蓄積してきた、知識・技術を広く市民の方々にもご提供できるようにと開設した「生涯学習講座」もおかげさまで4年目を迎えることができました。

2005年度は延べ約330名の皆さまに受講いただき、好評を得ています。芸術系大学である本学の施設を開放した人気の実技講座を中心に、外国語や文化講座の他、今年は「シルバークセサリー」や「エッセー入門」、「住いの設計」など新講座も開設、皆さまの幅広いニーズにお応えできる生涯学習を目指しています。

本学の生涯学習講座が市民の方々の学習意欲をさらに増し、新しい世界が開けるきっかけになればと考えています。ご希望の方には、詳しい総合パンフレット（FAX専用申込みシート付き）を無料でお送りします。

【パンフレット請求】

〒616-8362

京都市右京区嵯峨五島町1番地

芸術文化研究所内

生涯学習講座係

TEL. 075-864-7898（直）

FAX. 075-882-7770

geibunken@kyoto-saga.ac.jp

※ 2006年3月13日（月）より受講申込みの受付を開始します。お申込みは先着順とし、定員に達し次第締め切らせていただきますので、ご了承ください。なお、小学生夏休み講座の申込み受付は、7月3日（月）～です。

開講講座一覧

講座名	講師名
・日本画Ⅰ（花の写生）（全7回） ・日本画Ⅱ（小品制作）（全7回） ・日本画Ⅲ（小品制作）（全7回）	林潤一
・日本画(制作A)（全12回）	清水豊
・日本画(制作B)（全12回）	北村正己
・楽しく描く油絵基礎（全10回）	坂田芳孝
・洋画（全15回）	伊庭新太郎、蛭田均
・陶芸A（全5回）	佐藤巧
・陶芸B（全5回）	池田八栄子☒
・彫刻(パルプ造形)（全6回）	渡辺典子、竹内三雄
・彫刻(銘木を使って)（全6回）	渡辺典子、多田千明
・木版画を創る（全10回）	西真
・織をたのしむ（全8回）	吉水絹代
・シルバークセサリーをつくる（全4回）	森山幸子☒
・絵本（全15回）	伊勢信子、田中早智子
・水墨画（全10回）	山本六郎
・白黒写真－撮影からプリントまで－（全10回）	宇佐美宏
・住いの設計（全6回）	藤木庸介
・おもしろコンピュータグラフィックス（全4回）	三宅章介、江村耕市
・初級英会話Ⅰ（全6回） ・初級英会話Ⅱ（全6回）	エリック・カール・シェーンブルーン
・中級英会話Ⅰ（全6回） ・中級英会話Ⅱ（全6回）	マイケル・リップル
・フランス語の楽しみ（初級）Ⅰ（全6回） ・フランス語の楽しみ（初級）Ⅱ（全6回） ・フランス語の楽しみ（初級）Ⅲ（全6回） ・フランス語の楽しみ（初級）Ⅳ（全6回） ・フランス語の楽しみ（初級）Ⅴ（全6回）	アンドレ・アンジェイ
・フランス語（中級）Ⅰ（全6回） ・フランス語（中級）Ⅱ（全6回） ・フランス語（中級）Ⅲ（全6回） ・フランス語（中級）Ⅳ（全6回） ・フランス語（中級）Ⅴ（全6回）	末次エリザベート
・フランス文化を語る（全10回）	三好郁朗、大竹仁子、稲垣直樹、松島征
・エッセー入門（全10回）	大竹仁子、樋口至宏
・『万葉』世界の「眺め」の美学（全10回）	深田進
・フィットネス（全10回）	中森洋子、中川ヒカリ
・子供造形教室(小学1～6年生対象)（全8回）	☒村正己
・小学生夏休み講座（全3回）	有岡保行、金氏脩介、北村正己、平松國和

詳細な日時、受講料等につきましてはWebページ、パンフレットを参照ください。